

成長に向けての原子力戦略策定のポイントについてのこれまでの議論の整理

平成 22 年 2 月 23 日

原子力政策担当室

政府は、「グリーン・イノベーション」、「ライフ・イノベーション」などを戦略課題とする方針を含む新成長戦略を策定するとしている。原子力委員会は、原子力政策大綱に示す基本的考え方に則って原子力開発利用を着実に進める中で、こうした政府の目指すところに効果的に貢献することができると考える。このことを踏まえた成長に向けての原子力戦略の策定においては、特に以下の点が重要と考えられる。

1) グリーン・イノベーション

原子力発電を利用することにより発電のための化石燃料の消費を減らすことは、効果の大きい温室効果ガス排出抑制方策である。また、原子力発電は資本集約的技術であり、そのための設備投資により経済を刺激する効果も期待できる。このような原子力発電の特長を最大限に利用するためには、我が国における原子力発電による発電電力量を増やすことが重要である。

- 原子力発電による発電電力量を増やすための方策として、既設の原子力発電所の設備利用率の向上、出力向上が有効であると考えられる。これらの効率的・効果的な実現のために、どのような施策を重点的に推進すべきか。
- 原子力発電所の新設および増設を着実に進めることも有効であると考えられる。このために、どのような施策を重点的に推進すべきか。

2) ライフ・イノベーション

放射線は、医療分野では画像診断やがん治療などに利用されている。また、工業分野では半導体の製造やラジアルタイヤの製造などに利用されている。農業分野においても放射線育種や害虫防除に利用され、これらを通じて、産業技術の高度化や国民生活の水準向上に寄与している。

- これらの分野での放射線利用をさらに展開していくことが有効であると考えられる。その展開の促進のために、どのような施策を重点的に推進すべきか。
- 医療分野、農業分野における放射線利用技術をアジア地域に展開していくことは地域の発展に貢献するために重要であると考えられる。これらの技術のアジア地域への展開のために、どのような施策を重点的に推進すべきか。

3) 国際展開

アジアを中心とする原子力発電新規導入国、拡大国への協力を積極的に進めることはアジアのフロンティアの開拓という新成長戦略の方向性に適うものである。また、我が国の原子力産業が原子力発電プラントや高品質の機器・設備を海外に展開してい

くことは、日本の経済成長にも貢献できるものである。

- 日本の原子力産業が原子力発電プラントを海外に展開していくためには、政府と民間が一体となった体制を作って推進していくことが必要であると考えられる。このために、どのような施策を重点的に推進すべきか。
- 「単に良いものを作れば、使われる」との発想から脱却し、標準化・国際的なルール作り等の環境整備に積極的に参画することが有効であると考えられる。このためには、どのような施策を重点的に推進すべきか。
- 原子力発電プラントの海外への展開を成功に導くためには、社会インフラの整備等の事業を含めたものとする 것도有効であると考えられる。このためには、どのような取組みを重点的に推進すべきか。

4) 地域活性化

- 原子力施設立地自治体においては、原子力施設との共生が重視されている。原子力施設が地域の一員として、地域の将来ビジョンを共有し、持続的な発展を目指す取り組みに参加することにより、地域の活性化、地域の成長に貢献できる。これを推進するためには、どのような施策を重点的に推進すべきか。

5) 成長を支えるプラットフォーム

- 長期にわたって継続的な成長を生み出すために科学・技術の強化は重要である。この観点から、原子力の研究開発に対して、どのような施策を重点的に推進すべきか。
- 国際社会に通用するユニバーサルな人材を育成することは、国際展開や日本の長期的な成長を支えるために重要であると考えられる。このためには、原子力分野の人材育成に対して、どのような施策を重点的に推進すべきか。